

1. はじめに

1-1 本計画の策定趣旨

南空知地域は北海道の中央南西部に位置しており、総面積は約 2,562 km²で、空知管内の北空知地域及び中空知地域と比較して最も大きい地域です。4市5町からなる本地域は、森林や清流に恵まれた夕張山地の山岳、石狩平野の肥沃な農業地帯を有し、道内の米の主要産地となっており、大豆においては北海道トップの作付面積となっています。

また、経済活動や住民の通勤・通学、買物をはじめとした日常生活での結びつきに加えて、観光や医療における連携など、行政区を超えた多くの分野で相互に深い関係を築いています。

かつては産炭地域として多くの人口を抱えていましたが、炭鉱の閉山などにより人口が大きく減少を続けており、直近の令和2年国勢調査による人口は152,486人で、前回の平成27年国勢調査と比較して、14,205人(前回比9%)の減少となっています。また、国立社会保障・人口問題研究所の推計によれば、今後も人口減少の傾向は継続し、令和7(2025)年には137,171人となることが予想されています。

また、老年人口(65歳以上人口)は年々減少傾向にありますが、老年人口の減少を超える速度で生産年齢人口(15~64歳人口)の減少が進んでおり、これらの要因による人口減少に伴い、公共交通の利用者の減少だけでなく、運転手不足にも拍車がかかっている状況です。

本地域の公共交通網は、鉄道網として函館本線、室蘭本線及び石勝線、都市間バス網として高速いわみざわ号、高速みかさ号などが運行されており、中核都市である札幌市との繋がりが強いほか、北海道中央バス株式会社、ジェイ・アール北海道バスなどが運行する一般バス路線により中核都市群(江別市・岩見沢市・北広島市等)との繋がりも強く、広域的な通勤や通学を支える重要な交通ネットワークとなっています。また、隣接自治体間の移動のための一般バス路線や各市町が独自に運行するバス、乗合タクシーなどの公共交通も運行されています。

しかし、北海道旅客鉄道株式会社(以下、「JR北海道」という。)により平成28(2016)年に室蘭本線(沼ノ端-岩見沢)が「当社単独では維持することが困難な線区」と位置付けられたほか、利用者の減少及び運転手不足などにより、令和5(2023)年9月末には夕張鉄道株式会社の運行する南空知地域と札幌市を結ぶバス路線が3路線廃止となるなど、これら交通ネットワークの維持・確保は厳しい局面を迎えています。

加えて、運転手不足の常態化や新型コロナウイルス感染症の影響による需要回復の遅れなどにより、交通事業者の経営も極めて厳しい状況にあります。

こうした状況を踏まえ、地域住民の生活を支え、持続可能な将来の交通体系を構築するため、地域公共交通のマスタープランとなる「南空知地域公共交通計画」を策定します。

1-2 本計画で対象とする区域

本計画の対象区域は、空知総合振興局管内のうち、南空知9市町(夕張市、岩見沢市、美唄市、三笠市、南幌町、由仁町、長沼町、栗山町及び月形町)とします。

1-3 本計画の計画期間

本計画の計画期間は、令和6(2024)年度から令和10(2028)年度の5ヶ年とします。